

敬天千里眼 平成20年3月29日発行(随時)
発行所 敬天新聞社
〒335-0013
埼玉県戸田市喜沢壹丁目二十八番の四十三
TEL 048-229-0007
FAX 048-242-5858

敬天千里眼

党ごと巻添え食う前に、 自民は古賀誠を解任せよ

地元では不信の巻添えを食う取巻きも：

福田自民党政権に末期症状的な現象が出現した。悉く参議院で否定されたのだ。数の論理でゴリ押しして来たツケの悲哀を、今、正に身に滲みて制裁を受けているのである。

その最終章である解散総選挙が目を追って迫って来ている感がある。民主党も一時の勢いはなくなったが、時代の流れなのか二大政党へ加速化されて来た感はある。

私自身は変革を好まない日本人の場合、穏やかな多党制の方が合っている様な気もしていたが、政治腐敗や宣行腐敗を見ていると長期政権の奢りや濫み原因である事も見えてくるし、政権交代の可能性の高い二大政党制こそが、今の時代のニーズなのかも知れないとつくづく思う今日この頃である。

ところで、その一方の雄である自由民主党の選挙参謀長である古賀誠の事であるが、こんな人気が無い私利私欲の男を

選挙参謀長にして自民党は本気で勝つ気があるのか、と疑いたくなる。彼の地元から送られて来た情報によると彼の推薦、応援して来た地元首長や議員は連戦連敗で悉く完敗なのだそう。

その負け方も大差有り、小差有りとは色々であるが、あと一歩の所で負ける材料が立候補者本人の選択より古賀誠が付いているか付いていないか、という位に地元では人気が無いそうである。

有権者は古賀の思っているほどバカじゃない

先日どこかのテレビ番組で道路特定財源の是非と云う事で民主党の菅直人がレポーターとして出ていた番組の中で福岡、熊本を結ぶ道路の整備や新幹線の博多、熊本間の中に必要のない新駅を作る話が出ていたが、この駅こそ地元では『まこと小塚』と呼ばれている新舟小塚の話だったのだ。

地元の人達の話では全く利用する人もいないし、誰も新駅なんか望んでいない、と云う。一部の土建屋の為の公費の無

駄遣いなのである。また、これとは反対に、先週末は古賀誠自身が「有明海沿岸道路開通記念ウォーキング&マラソンフェスタ」に参加して老醜な笑顔を振りまいていた。しかしこの程度で地元有権者に訴えるものはない。

そもそも道路特定財源問題が騒がれる中、その利権の巢の中で利権を貪り食っている道路族の親玉が、自分に利益を充分もたらした新開通道路の上を、被害を受けたであろう善の周辺住民に声援を送られながらマラソンしている光景など、奇っ怪なものがある。

へらへらマラソンしながら「地方行政の道路予算への期待を後ろ盾にして、まだまだ族議員としての、この道路で稼いでやるぞ」とでも考えていたのかも知れない。

しかし地元で力を持つ有力者達は、もう古賀誠の二枚舌には惑わされないう、という確信に近いまでの不信感を持っている。

この男がどれだけマスコミを利用してポジティブイメージを売ったところで、現実の信頼崩壊は止まらない。古賀誠

が思っているほど有権者はバカじゃない。今度の選挙では落選するだろうとの噂も地元では出ているらしいが、官行の不正を追及出来ないと、指導出来ない、三流と呼ばれる所以の政治家の実態が実はこちらにあるのである。

自分達が利権に塗れて動き廻っている癖に、何を寝惚けた事を言ってるんだ、と官行に舐められているのだ。

ハコ物で媚を売る集票法は終ってるのだ

古賀誠は郵政国会の時、「民営化反対」の旗を振り、衆院採決前に「旧堀内派の十票は俺が持っている」と豪語し、参院の若手議員に対し、反対票を投じるよう命じていたにも拘らず、本人自身は衆院本会議の採決で「反対」ではなく、「棄権」という手を使って逃げた。そして選挙では「公認」を受け、着いて来た者を裏切った。

また「ポスト小泉」を巡る動きの時も、最初は「反小泉」、「非安倍」の立場から加藤紘一や山崎

拓と連携し福田康夫元官房長官(当時)擁立に動いたが、福田氏が出馬を断念するや、早々に「安倍支持」を表明した。この男の無節操を見ていると、あの加藤や山崎でさえ立派に見えて来るから不思議だ。

古賀誠は鈴木宗男のミニ版と地元では呼ばれているらしいが、自民党の中では鈴木宗男より古賀誠の方が格上だった筈なのにミニ版とは哀れな話だ。セコイという意味なのだろうか。こういう勘違い男を反省させるには落選が一番効果的だ。

長い間、特権を持たせると人は勘違いする。「お前も我々と同じ人間なんだ」という庶民感覚を教えるには良薬は落選させる事。百度のお説教より一度の実体験。

古賀誠にしてみれば「私はこれだけ力がありますよ」と選挙運動の為に新駅を作っているのかも知れないけど、全国的な発想で国が知恵を絞っている時代に、地元民といえども日本人、必要な物とそうでない物の区別位は付くと思っし、目先の餌玉に騙されたいと思

うよ。